

Title	2021年度定年退職者略歴・著作目録一覧：大石裕
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.93 (2022. ) ,p.129- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000093-0129">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000093-0129</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2021年度定年退職者略歴・著作目録一覧

大石 裕（おおいし ゆたか）

### 学歴

- 1975年4月 慶應義塾大学法学部 政治学科入学。
- 1979年3月 慶應義塾大学法学部 政治学科卒業。
- 1979年4月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学。
- 1982年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。
- 1982年4月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程入学。
- 1985年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。

### 学位

博士（法学）慶應義塾大学 1998年7月

### 職歴

- 1985年4月-1989年3月 財団法人電気通信政策総合研究所研究員。
- 1989年4月-1992年3月 関西大学社会学部専任講師。
- 1992年4月-1995年3月 関西大学社会学部助教授。
- 1992年4月-1995年3月 東京大学社会情報研究所客員助教授。
- 1995年4月-1997年3月 慶應義塾大学法学部政治学科助教授。
- 1996年4月-2021年3月 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所所員。
- 1997年4月-2021年3月 慶應義塾大学法学部政治学科教授。
- 1998年4月-2021年3月 慶應義塾大学院法学研究科委員。
- 1998年4月-2021年3月 慶應義塾大学院社会学研究科委員。
- 2000年4月-2000年9月 Visiting Professor, Westminster University (英国)。
- 2000年10月-2002年3月 Visiting Fellow, University of Essex (英国)
- 2005年4月-2010年3月 早稲田大学現代政治研究所研究員。
- 2005年10月-2009年9月 慶應義塾大学グローバル・セキュリティ研究所上席研究員。
- 2007年10月-2011年9月 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所長。
- 2011年10月-2015年9月 慶應義塾大学法学部長。
- 2011年10月-2015年9月 慶應義塾大学大学院法学研究科委員長。
- 2017年6月-2021年5月 慶應義塾常任理事。

- 2021年3月 東海大学文化社会学部客員教授。  
 2021年10月～ 十文字学園女子大学特別招聘教授（現職）。  
 2022年4月～ 東海大学文化社会学部特任教授（現職）。

早稲田大学大学院政治学研究科，早稲田大学教育学部，日本大学大学院新聞学研究科，日本大学法学部，成蹊大学文学部，成城大学文藝学部（現職），東海大学文学部，フェリス女学院大学文学部，新潟大学人文学部，静岡大学人文社会学部，県立長崎シーボルト大学人間社会学部，常磐大学人間科学部，大阪芸術大学放送学科，などで非常勤講師を担当（集中講義を含む，順不同）。

#### 学会役職・委員

- 1991年6月-1997年5月 日本マス・コミュニケーション学会・編集集委員会委員。  
 1995年6月-2000年3月 財団法人情報通信学会・企画委員会委員。  
 1997年6月-1999年5月 日本マス・コミュニケーション学会・企画委員会委員。  
 1999年6月-2000年3月 日本マス・コミュニケーション学会・編集委員会委員。  
 2002年6月-2004年5月 財団法人情報通信学会理事。  
 2003年6月-2007年5月 日本マス・コミュニケーション学会理事。  
 2004年6月-2006年5月 財団法人情報通信学会常務理事。  
 2006年6月-2008年6月 財団法人情報通信学会評議員。  
 2007年6月-2009年5月 日本マス・コミュニケーション学会・国際交流委員会委員。  
 2009年6月-2013年5月 日本マス・コミュニケーション学会理事。  
 2015年6月-2017年5月 日本マス・コミュニケーション学会会長。

#### 社会活動

- 2002年10月-2010年9月 日本私立大学連盟・広報委員会委員。  
 2010年5月-2012年3月 朝日ニュースター・番組審議会委員長。  
 2012年4月-2013年3月 TBS ラジオ・番組審議会委員。  
 2012年4月～ 日本アカデミア幹事（現職）。  
 2013年4月-2020年3月 TBS ラジオ・番組審議会委員長。  
 2015年12月～ ヤフーニュース・ニュースメディア運営に関する有識者会議委員（現職）。  
 2016年4月-2021年3月 一般財団法人 櫻田会・櫻田會賞（政治学）審査委員。  
 2016年4月～ 公益法人 那須記念財団・奨学金選考委員会委員（現職）。  
 2016年9月～ 日本新聞協会「地域貢献大賞」審査委員（現職）。  
 2020年4月～ 文部科学省・大学設置学校法人審議会学校法人分科会特別委員（現職）。  
 2020年4月～ BPO(放送倫理番組向上機構)放送倫理検証委員会委員（現職）。  
 2021年4月～ CS日本テレビ・番組審議会委員長（現職）。

## 受賞

- 1986年3月 テレコム社会科学賞奨励賞（共同受賞）（電気通信普及財団）『世田谷ケーブル火災に関する調査研究』（電気通信総合研究所報告書）。
- 1993年3月 「テレコム社会科学賞」（電気通信普及財団）『地域情報化—理論と政策』（世界思想社）
- 2000年3月 「櫻田会奨励賞」（一般財団法人櫻田会）『政治コミュニケーション—理論と分析』。
- 2006年11月 慶応義塾賞『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房）

## 単著書

- 『地域情報化—理論と政策』世界思想社，1992年。
- 『政治コミュニケーション—理論と分析』勁草書房，1998年。
- 『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房，2005年。
- 『メディアの中の政治』勁草書房，2014年。
- 『批判する/批判されるジャーナリズム』慶應後塾大学出版会，2017年。
- 『国家・メディア・コミュニティ』慶應義塾法学研究会，2022年。
- 『コミュニケーション研究—社会の中のメディア（第5版）』（初版1998年，第2版2006年，第3版2011年，第4版2016年，第5版2022年）慶應義塾大学出版会。

## 編著書

- 『ジャーナリズムと権力』世界思想社，2006年。
- 『戦後日本のメディアと市民社会—「大きな物語」の変容』ミネルヴァ書房，2012年。
- 『デジタルメディアと日本社会』学文社，2013年。

## 共編著書

- 大石裕・根岸毅編著『変動する政治と社会—解説の手法（慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念講座）』慶應義塾大学出版会，1998年。
- 田中宏・大石裕編著『政治・社会理論のフロンティア』（慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集）慶應義塾大学出版会，1998年。
- 大石裕・山本信人編著『メディア・ナショナリズムのゆくえ—「日中摩擦」を検証する』朝日新聞社（選書），2006年。
- 大石裕・山本信人編著『イメージの中の日本—ソフト・パワー再考』慶應義塾大学出版会，2008年。
- 大石裕・山腰修三・中村美子・田中孝宜編著『メディアの公共性』慶應義塾大学出版会，2016年。

## 共著書（分担執筆を含む）

- 'Social Impacts of the New Utopias' (with Ito Yoichi) W.Dutton et al. ed. *Wired Cities: Shaping the Future of Communications*, G.K.Hall, 1987年。
- 「地域コミュニケーションをめぐる理念と政策」竹内郁郎・田村紀雄編著『新版：地域メディア』日本評論社，1990年。
- 「社会運動と世論」社会運動論研究会編『社会運動論の統合をめざして』成文堂，1990年。

- 「地域コミュニケーション」立川敬二監修『コミュニケーションの構造』NTT 出版, 1993 年。
- 「社会運動とコミュニケーション：リポート開発をめぐるメディア言説」社会運動論研究会編『社会運動の現代的位相』成文堂, 1994 年。
- 「政治コミュニケーション論の視座転換—多次元的権力観の導入」東京大学社会情報研究所編『社会情報と情報環境』東京大学出版会, 1994 年。
- 「日本社会の情報化と社会変容」鶴木眞編著『はじめて学ぶ社会情報論』三嶺書房, 1995 年。
- 「地域情報システムの変容 (3) 地域住民の情報行動」東京大学社会情報研究所編『情報行動と地域情報システム』東京大学出版会, 1996 年。
- 「社会情報」有末賢ほか編著『社会学入門』弘文堂, 1996 年。
- 「情報化と地域社会」をめぐる諸概念, 「日本社会の近代化と情報化—国家・地域間関係を中心に」『情報化と地域社会』福村出版, 1996 年。
- 「情報化と地方文化」間場寿一編著『地方文化の社会学』世界思想社, 1998 年。
- 「客観報道論再考—マス・コミュニケーション論の観点から」鶴木眞編著『客観報道—もう一つのジャーナリズム論』成文堂, 1999 年。
- 「都市と情報」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣, 1999 年。
- 「ニュースの機能と受容のメカニズム」, 「印刷メディア」, 「ニュースの政治学」『現代ニュース論』有斐閣, 2000 年。
- 「マス・コミュニケーションにおける言語と認知」辻幸夫編著『ことばの認知科学事典』大修館書店, 2001 年。
- 「拡大する「政治」と社会運動論——「文化」のインパクトを中心に」野宮大志郎編著『社会運動と文化』ミネルヴァ書房, 2002 年。
- 「マス・コミュニケーションと戦後日本の政治学」鶴木眞編『コミュニケーションの政治学』慶應義塾大学出版会, 2003 年。
- 「地域メディアと地方政治」田村紀雄編著『地域メディアを学ぶ人のために』世界思想社, 2003 年。
- 「政治環境とジャーナリズム」田村紀雄・林利隆・大井真二編著『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社, 2004 年。
- 「マス・コミュニケーションと近代国家」小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版, 2004 年。
- 「チッソ安定賃金闘争」をめぐるメディア言説」小林直毅編著『「水俣」の言説と表象』藤原書店, 2007 年。
- 「沖縄地方紙と沖縄の記憶」『慶應の政治学 (慶應義塾創立 150 年記念法学部論文集)』慶應義塾大学出版会, 2008 年。
- 「権力とジャーナリズム」浜田純一ほか編著『新聞学 (新訂)』日本評論社, 2009 年。
- 大石裕・池上彰・片山杜秀・駒村圭吾・山腰修三『ジャーナリズムは甦るか』慶應義塾大学出版会, 2015 年。
- 「ニュース研究の基礎概念」, 「グローバル化とニュースの国際的な流れ」, 山腰修三編著『入門 メディア・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会, 2017 年。

## 翻訳

- H. J. ウィーアルダ編『比較政治学の新動向』（共訳：大木啓介・佐治孝男・桐谷仁）東信堂，1988 年。
- F. J. ベリガン編『アクセス論—その歴史的発生の背景』（鶴木眞監訳，共訳：桜内篤子・岩田温）慶應義塾大学出版会，1991 年。
- M. マコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部，1994 年。
- G. E. ラング・K. ラング『政治とテレビ』（共訳：荒木功・小笠原博毅・神松一三・黒田勇）松籟社，1997 年。
- 『リーディングス：政治コミュニケーション』（共編訳：谷藤悦史）一藝社，2002 年。
- D. マクウェール『マス・コミュニケーション研究』（監訳）慶應義塾大学出版会，2010 年。

## 調査研究報告書（分担執筆）

- 『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅱ』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1985 年。
- 『世田谷ケーブル火災による電話不通に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1985 年。
- 『諸外国の放送制度に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1986 年。
- 『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅲ：ニューメディアの試みから』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1986 年。
- 『データ放送に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1987 年。
- 『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅳ：コミュニケーション研究の課題』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1987 年。
- 『放送メディアの多様化と放送事業の存立の経済的基盤に関する調査研究：有料テレビ編』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1988 年。
- 『海外における衛星放送計画の発展過程と将来の可能性に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1988 年。
- 『わが国における情報政策の展開Ⅱ：新たな研究視座の構築に向けて』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1992 年。
- 『情報社会におけるコミュニケーション構造の変容』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）1993 年。
- 『水俣病事件報道のメディアテキストとディスコースにかんする研究』（文部科学省科学研究費報告書）2006 年。

## 学術論文

- 「コミュニティ権力構造論再考」『慶應義塾大学法学研究科論文集』（17 号）1983 年。
- 「市民運動とマスコミ—南アルプス・スーパー林道建設反対運動を一事例として」『新聞学評論（日本新聞学会）』（33 号）1984 年。
- 「市民運動と潜在的世論—玉川上水保存運動を一事例として」『慶應義塾大学新聞研究所年報』（24 号）1985 年。
- 「電話依存型社会の陥穽」（共著：川浦康至・赤尾・晃一・古川良治）『情報通信学会誌』（3 巻）1985 年。
- 「国際文化交流意識に見られる地域差」（共著：伊藤陽一，岩井奉信）『慶應義塾大学新聞研究所年報』

(25号) 1986年。

「地域開発とコミュニケーション政策の連関」『情報通信学会年報』(3号) 1986年。

「日本における有線テレビ研究の現状—実証的研究を中心に」(共著:伊藤陽一)『慶應義塾大学新聞研究所年報』(27号) 1986年。

「災害時における送り手と受け手の情報行動」(共著:古川良治)『情報通信学会誌』(4巻) 1986年。

「情報化と地域開発」『情報通信学会誌』(5巻) 1987年。

‘The Impacts of Informationization on Regional Development’ *Keio Communication Review* (No.9) 1988年。

‘Japan’s Informatization Policy and the Urban-Rural Gap: A Critical View’ *Media Asia* (Vol.16) 1989年。

「情報化政策の変遷—郵政省と通産省の競合を中心に」『関西大学社会学部紀要』(21巻) 1990年。

「マス・コミュニケーション論の変容—大衆社会論の「遺産」とパワフル・メディア論」『関西大学社会学部紀要』(23巻) 1991年。

「ニューメディアの可能性と限界」『三色旗』(1991年11月号)。

「政治コミュニケーションと文化」(共著:藤田真文)『マス・コミュニケーション研究(日本マス・コミュニケーション学会)』(42号) 1993年。

「政治シンボルとしての地域情報化」『放送学研究(NHK放送文化研究所)』(44巻) 1994年。

「コミュニケーションの政治学—「情報化政策」批判のための覚書」現代社会研究班編『現代社会の断面』(関西大学経済政治研究所) 1995年。

「政治コミュニケーション論の再構成—排除モデルに関する一考察」『法学研究』(69巻6号) 1996年。

「政治社会学から見たモダニティー社会運動論の展開を中心に」『三田社会学』(3号) 1998年。

「アジェンダ(議題)設定メディアとしての新聞」『新聞研究(日本新聞協会)』(571号) 1999年。

「政治コミュニケーション論から見たマスメディア「組織」の現在—権力と価値の多元化」『NIRA政策研究(野村総合研究所)』(12巻5号) 1999年。

「メディア論の限界と政治コミュニケーション論」『三田社会学』(4号) 1999年。

「地方紙のニュース制作過程—茨城新聞を事例として」(共著:岩田温・藤田真文)『メディア・コミュニケーション』(50号) 2000年。

「メディア・イベントとメディア言説—英国ホロコースト・メモリアル・ディを一事例として(1)」『法学研究』(76巻, 5号) 2003年。

「メディア・イベントとメディア言説—英国ホロコースト・メモリアル・ディを一事例として(2)」『法学研究』(76巻, 6号) 2003年。

「ニュース分析の視点—内容分析と言説分析」『法学研究』(77巻, 1号) 2004年。

「「政治」の中のメディア言説—水俣病新聞報道に関する一考察」『法学研究』(77巻12号) 2004年。

「世論調査と市民意識—イラク戦争と自衛隊派遣(2003~2004年)を一事例として」『メディア・コミュニケーション』(55号) 2005年。

「放送ジャーナリズムの現在」『月刊民放(日本民間放送連盟)』(36巻, 5号) 2006年。

「メディア・フレームと社会運動に関する一考察」『三田社会学』(12号) 2007年。

‘A Consideration of Media-Nationalism: A Case Study of Japan after the Second World War’ *Keio Communication Review* (No.30) 2008年。

- 「沖縄地方紙における「記憶の網」『法学研究』（82巻2号）2009年。
- 「生産過程に即して考えるニュース・バリュー」『広報会議』（宣伝会議）2010年。
- 「能動的オーディエンス論の構成」『法学研究』（83巻2号）2010年。
- 「ニュースの物語の重層性」『社会志林（法政大学社会学部）』（56巻4号）2010年。
- 「情報社会論再考—グローバルゼーション（論）との関連を中心に」『法学研究』（83巻12号）2010年。
- 「情報化の進展とコミュニティ（論）の変容—国民国家との関連から」『法学研究』（84巻1号）2011年。
- 「『コミュニティ』の多様化とコミュニティ・メディア」『法学研究』（84巻2号）2011年。
- 「戦後日本の社会運動におけるチッソ労働運動の位置づけ—もう一つの「水俣」」『大原社会問題研究所雑誌（法政大学出版局）』（630号）2011年。
- 「現代日本の世論とメディア政治」『法学研究』（84巻6号）2011年。
- 「テレビ・ジャーナリズムとテレビ政治」『月刊民放（日本民間放送連盟）』（42巻7号）2012年。
- 「政局報道と政策報道—「3.11 震災報道」を中心に」『メディア・コミュニケーション』（63号）2013年。
- 「『物語』という「政治」」『法学研究』（86巻7号）2013年。
- 「ニュースの生産過程モデル試論—「誤報」と「歴史認識」をめぐって」『メディア・コミュニケーション』（65号）2015年。
- 「ジャーナリズムと歴史認識」『法学研究』（89巻2号）2016年。
- 「戦後日本の大衆社会論とマス・コミュニケーション論・再考」『法学研究』（90巻1号）2017年。
- 「沖縄地方紙と沖縄の「地方益」」『法学研究』（90巻7号）2017年。
- 「ニュースバリューとニュースの南北問題」『三色旗』（811号）2017年。
- 「マス・コミュニケーション論と政治意識論」『法学研究』（91巻3号）2018年。
- 「フェイクニュースとジャーナリズム論」『法学研究』（92巻1号）2019年。
- 「政治発展論とコミュニケーション発展モデル」『法学研究』（92巻2号）2019年。
- 「『国家・メディア・コミュニティ』の再考察」『ジャーナリズム&メディア』（日本大学法学部新聞学研究所）（12号）2019年。
- 「大衆の「救済」とマス・コミュニケーション論」『マス・コミュニケーション研究』（97号）2020年。

翻訳：論文（抄訳含む）

- 「情報経済の将来」（抄訳）『慶應義塾大学新聞研究所年報』（19号）1982年。
- 「コミュニケーション政策問題理解のために」（抄訳）『慶應義塾大学新聞研究所』（21号）1983年。
- 「メディアの争点設定と世論」（抄訳）『慶應義塾大学新聞研究所』（22号）1984年。
- 「新しい電気通信サービス普及過程を分析する」（共訳）『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）1985年10月号。
- 「ビデオテキストと社会」（共訳）『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）1986年4月号。
- 「テレテキストと社会」（共訳）『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）1986年10月号。
- 「電気通信と開発」（抄訳）『慶應義塾大学新聞研究所』（26号）1986年。
- 「ニューメディア時代における公共放送」『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）1987年2月号。



## 評論 (Web 版含む)

- 「情報化では東京集中を防げない」『エコノミスト (毎日新聞社)』(11月25日号) 1986年。
- 「情報開発の光と影」『テレメディア (テレメディア社)』(創刊準備号) 1988年11月。
- 「今、日本のジャーナリズムを考える」『三田評論』(1096号) 2006年。
- 「大学における NIE (教育に新聞を)」『大学時報 (日本私立大学連盟)』2007年11月号。
- 「[沈黙の螺旋] モデル」『SAPIO』(小学館) 2009年12月号。
- 「就職とジャーナリズム研究の両立をめざす慶應義塾大学「メディアコムの教育内容」『ジャーナリズム (朝日新聞社ジャーナリスト学校)』(245号) 2010年。
- 「テレビに聞きたい! 行方不明の母親を捜す子供一家に密着する情緒的報道の意義とは」『SAPIO (小学館)』2011年5月4日号。
- 「学際的な理論を手がかりに「現実」に近づく」(特集:「現在」をより深く知るために「ジャーナリストが薦める100冊」)『ジャーナリズム (朝日新聞社ジャーナリスト学校)』(279号) 2013年。
- 「慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所一掘り下げていく力と視点を研究を通し学び、鍛えていく」『ジャーナリズム (朝日新聞社ジャーナリスト学校)』(286号) 2014年。
- 「激しい誤報批判の底流にある戦後の価値観を問い直す動き」『ジャーナリズム (朝日新聞社ジャーナリスト学校)』(295号) 2014年。
- 「産経新聞・前ソウル支局長在宅起訴を考える (web版)」(nippon com.) (2014年11月27日)。
- 「池上氏との対論で再認識した多様な言論があることの価値」『ジャーナリズム』(朝日新聞社ジャーナリスト学校) (296号) 2015年。
- 「若者に魅力ある新聞ジャーナリズムへ—社会の複雑さをどう引き受けるかが課題」『ジャーナリズム』(朝日新聞社ジャーナリスト学校) (310号) 2015年。
- 「時代とともに変容したメディアに今こそ必要な記録し批判する役割」『ジャーナリズム』(朝日新聞社ジャーナリスト学校) (303号) 2016年。
- 「古くて新しい? 「脱・真実」 ネット大衆社会がジャーナリズムにもたらす変化 (web版)」『The PAGE』(ヤフー・ニュース) 2017年2月5日。
- 「コロナ報道の「物語」を見いだせないジャーナリズムの危機 (web版)」『web 論座』(朝日新聞社) 2020年6月21日。

## 書評 (リプライ含む)

- 書評「岡田直之著『世論の政治社会学』」『社会学評論』(52巻3号) 2001年。
- 書評「駒村圭吾著『ジャーナリズムの法理—表現の自由の公共的使用』」『法学研究』(75巻5号) 2002年。
- ビューポイント「鶴木眞編著『コミュニケーションの政治学』」『三田社会学』(9号) 2004年。
- 書評論文リプライ「大石裕著『ジャーナリズムとメディア言説』」『三田社会学』(11号) 2006年。
- 書評論文リプライ『大石裕・山本信人編著『メディア・ナショナリズムのゆくえ—「日中摩擦」を検証する』』『三田社会学』(12号) 2007年。
- 書評「遠藤薫著『間メディア社会と〈世論〉形成—TV・ネット・劇場社会』」『社会学評論』(59巻1号) 2008年。

## 講演記録

- 「メディア・ナショナリズムー日中摩擦を事例に」『比較法文化（駿河台大学比較法研究所）』2007年。  
「ニュースと政治を見る視点」『ニュースという「知識」（慶應義塾創立150年記念講演会）』2008年。  
「メディアと市民意識—戦後日本社会を中心に」『三田評論』（1161号）2012年11月。

## 学会シンポジウム・ワークショップ記録

- ワークショップ記録「地域メディアと地域マス・メディアの補完関係について—メディア環境の構造把握のための一つの視角」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（43巻）1993年。  
ワークショップ記録「ジャーナリズムの新しい“文体（スタイル）”を考える」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（52巻）1998年。  
ワークショップ記録「客観報道の過去・現在・未来—客観報道をめぐる議論のレビューと今後の研究の展望について」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（55巻）1999年。  
ワークショップ記録「住民投票とローカル・ジャーナリズムの課題」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（62巻）2003年。  
シンポジウム記録「webジャーナリズムの衝撃」『情報通信学会誌』（24巻2号）2006年。  
シンポジウム記録「水俣病事件報道を検証する」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（71巻）2007年。  
ワークショップ記録「ジャーナリズム研究とジャーナリスト/ジャーナリズムの間（1）—新しいジャーナリズムの構築に向けて」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（77巻）2010年。  
ワークショップ記録「メディア政治とジャーナリズム—政権交代前・後」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）（80巻）2012年。  
パネル・ディスカッション記録「AI/IoT 新時代の情報通信政策の未来」『情報通信学会誌』（36巻4号）2019年。  
「マス・コミュニケーション研究と社会理論：討論者コメント」『三田社会学』（25号）2020年。

## 座談会

- 「変動期の中のジャーナリズム」（木村太郎・鶴木眞・坂東愛彦・大石裕）『三田評論』（985号）1996年11月。  
「文系大学院の行方」（富塚嘉一・浅野考平・千葉眞・松田修一・大石裕）『大学時報（日本私立大学連盟）』2003年9月号。  
「法科大学院を考える」（永田眞三郎・丸山雅夫・奥島孝康・道あゆみ・大石裕）『大学時報（日本私立大学連盟）』2004年5月号。  
「これからの大学と大学生の「質」を考える」（上村祐一・飯田毅・近藤久雄・斎藤誠・大石裕）『大学時報（日本私立大学連盟）』2008年3月号。  
「「学士力」と私立大学の教育力」（高祖敏明・竹内洋・寺崎昌男・田中愛治・大石裕）『大学時報（日本

私立大学連盟』2008年3月号。

「女子大学の力」(川合真一郎・後藤祥子・湊晶子・飯野正子・大石裕)『大学時報(日本私立大学連盟)』2008年11月号。

「変容するメディア政治のゆくえ」(箕輪幸人, 遠藤薫, 矢島尚, 稲井田茂, 大石裕)『三田評論』(1132号)2010年3月。

「ジャーナリズム教育の今」(野村彰男・谷藤悦史・鈴木雄雅・小俣一平・伊藤英一・大石裕)『メディア&ジャーナリズム(日本大学法学部新聞学研究所)』(第3号)2010年。

「メディアは揺らぎ, 学生は変わる。今。大学は何を教えるべきか?」(音好宏・瀬川至朗・野村彰男・大石裕)『ジャーナリズム(朝日新聞社ジャーナリスト学校)』(245号)2010年10月。

「メディア政治のなかのネット選挙」(田中愛治・井原康宏・西田亮介・李洪千・大石裕)『三田評論』(1171号)2013年10月。

「「入試改革」のこれまでと, これから」(伊東辰彦・宮下明大・小林直毅・大石裕)『大学時報(日本私立大学連盟)』2016年5月号。

「コロナ報道」を考えるーリスク社会のメディアのあり方」(李光鎬・烏谷昌幸・山腰修三・大石裕)『三田評論』(1246号)2020年7月。

#### インタビュー記録

「真価を問う! 激変岐路の放送ジャーナリズム」『放送界』2015年3月31日号。

「『批判する/批判されるジャーナリズム』を書いた大石裕氏に聞く」『週刊東洋経済』2017年2月25日号。